

熊本地震復興支援の恩恵は 新たに「熊本子ども未来プロジェクト」として 支援金を子ども達の未来に還元する

『プロジェクトの方向性』

- 1, 復興支援で開発したFun&Fit 運動プログラムをもとに、継続的に保育士の先生方がよりわかりやすいように研修を継続していく。
- 2, プログラムのノウハウが、災害や集団感染などの子ども達の活動停止時に活かされている。その実績をもとに必要とする人たちへ役に立てるような啓発活動を実施する。
- 3, 未来の教職員（学生）への実地研修を提供する。
- 4, 子ども達の考案プロジェクトをサポートする

開発プログラム啓発事業 報告（令和6年度）

熊本地震から8年半、震源地であった益城エリアは熊本県が提供するスクールバス送迎支援（遠方通学）が昨年廃止された。益城町教育委員会の運動体力調査によると年々運動能力の低下が問題視されている。また当団体も益城町の総合運動部を通して運動不足による腕力と共に脚力低下が課題と感じている。

令和3年度の研究をもとに開発した「Fun&Fit オリジナル運動プログラム」の体験型研修を県内で幅広く提供できた。研修後のアンケート調査を繰り返すことでプログラム改良を行い「幼児期に身に付けてほしい36の基本動作カード（サーキットカード）」を更なる改善を行った。

※定期的に職員が実施しているプログラムに対してフィードバックやスキルアップ研修、動作カードの改善などのヒアリングを行い、保育士・幼稚園教諭だけで狙いのある運動指導で向上したかを研究調査する。

「益城町」と共に子どもの未来をサポートしていけるように、誰でもどこでも「心身ともに逞しく、災害時や社会に通用するような生きる力を養う」プログラムを全国で幅広く提供できる取り組みを行う。

《内容》

1, 『幼児体育教室』+『プログラム啓発活動』

- 【時間】 園の正規時間内
- 【対象】 全園児 延べ750名
- 【費用】 NIPPON IT チャリティー駅伝実行委員会（東京）
一般社団法人Fun&Fit 予算、益城各保育予算
- 【回数】 各園毎月1回ずつ実施

【内容】

現地ヒアリングと先生方への運動に関する「悩み」を集約する為にアンケート調査をする。昨年度同様に研修結果と悩みアンケート調査の結果をもとに、悩みの解決につなげる運動プログラムを在園児に対して指導をし、現場で研修を行う。その後、実践に対するアンケート調査と測定を行い、保育士・幼稚園教諭だけで狙いのある運動指導ができる環境を提示して行く。

【実施園】 令和6年4月から令和7年3月末 各園12回 計120h

・ 益城町立益城第1保育所 2h×12日

4月11日、5月1日、6月3日、7月1日、8月5日、9月2日、10月2日、11月6日、12月2日、1月6日予定、2月3日予定、3月3日予定

・ 益城町立益城第二保育所 2h×12日

4月8日、5月8日、6月10日、7月8日、8月7日、9月9日、10月7日、11月13日、12月9日、1月15日予定、2月10日予定、3月10日予定

・ 益城町立益城第三保育所 2h×12日

4月15日、5月15日、6月17日、7月17日、8月14日、9月18日、10月16日、11月18日、12月16日、1月20日予定、2月17日予定、3月17日予定

・ 益城町立益城第四保育所 2h×12日

4月22日、5月20日、6月24日、7月24日、8月26日、9月25日、10月21日、11月25日、12月23日予定、1月29日予定、2月19日予定、3月24日予定

・ 益城町立益城第五保育所 2h×12日

4月22日、5月27日、6月24日、7月31日、8月28日、9月30日、10月28日、11月11日、12月23日予定、1月27日予定、2月26日予定、3月24日予定

【成果】

昨年度の課題であった、未就学児の運動能力数値を小学校にも申し送りをする事で継続的な環境創りができると考える。今後も保護者や学校職員へアンケート収集やヒアリングを行いニーズ調査する課題に対して、保護者会の講演、親子活動にて「運動面、家庭での環境作り、成長における関わり方」子育てに役立つ知識と活かし方を提供することができた。保育園を通して小学校へ申し送りを実施していただいた園もあるので引き続き継続的に数値共有でサポートをしていく。

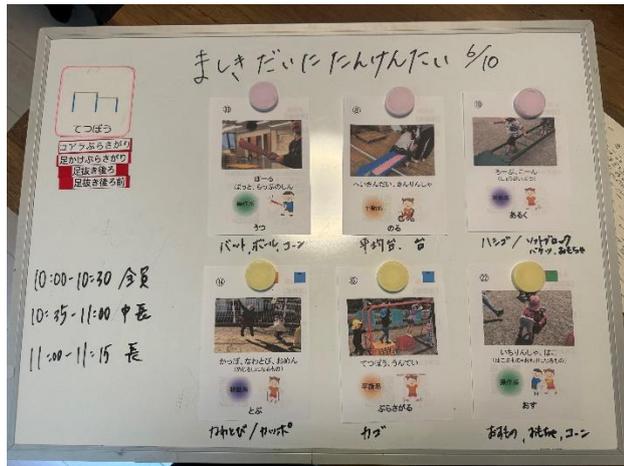
【課題】

「幼児期に身に付けてほしい36の基本動作カード(サーキットカード)」「Fun&Fitオリジナル運動プログラム」の体験型研修の際に、学年が変わることで園の職員の共通理解に差が出る。どの職員が担当しても理解している環境が望ましい。各職員へ「なぜこの取り組みをしているのか」重要性や共通理解をするための園の全職員への全体研修を入れるとよいのではないかと考える。

【活動の様子】



屋外にて園にある道具で「基礎体力を高めるあそび」実施している



全園児ができるように「サーキットカード」を参考にクラス毎にレベルを分けて実施

2、『体験型研修』+『プログラム啓発活動』

【対象】 県内公立保育園 17 園、益城町保育研修会 17 園

【費用】 各研修依頼予算

【回数】 研修・アンケート調査 1セットで実践

【内容】

研究をもとに開発した「Fun&Fit オリジナル運動プログラム」プログラム改良を行い「幼児期に身に付けてほしい 36 の基本動作カード（サーキットカード）」の体験型研修を提供する。

【実施日】 7月22日（2H）、11月9日（2H）

【成果】

年齢、場所、道具に応じて誰でも簡単に「カードを見て真似できる」子ども達は楽しく身体を動かす。保育者は意図した環境を設置する。カードがあることで動作のねらいやポイントがわかる。カードの使い方や子ども達の課題に合わせて使えるように、体験型の研修を導入することで理解力が高まった。知識を聞くだけではなく体感することで子どもの課題を改めて実感できた。身近なもので誰でもできることから高評価であった。昨年の課題であった「再現性」に対しても、園内で動画やレッスン中の写真とどのような効果があるなどの各クラスへ申し送りや園内研修で共有している話を聞くことができた。

【課題】

まだ園によっては昨年の課題、研修に参加した職員は理解しているが、実際に保育の中で子ども達へ狙い通りプログラムを落とし込めているか「再現性」があるのか。その後のヒアリング調査と研修後のフォローを継続的に行う。

【活動の様子】



講話後に実技は園児に対して実施、学んだことを即アウトプットできる研修にした

3、『Fun&Fit 益城クラブ（総合運動部）フードロスプロジェクト - 』

【対象】 6年生児童 20名

【費用】 NIPPON IT チャリティー駅伝実行委員会（東京）
一般社団法人 Fun&Fit 予算

【回数】 毎月1回ずつ実施（実施合計6回 令和5年6月から現在に至る）

【内容】 6年生の発案をもとに実施するリアル体験活動【ファンタブル】結成

■意味

Fun&Fit × vegetable = Funtable（ファンタブル）

■目的

- ① 農作物フードロス削減
- ② 6年生卒業イベント資金調達「令和6年度テーマ：地域運動会を実施したい」
- ③ 次年度の野菜の種や苗、畑に必要な道具購入

■経緯

年に数回行っている農業体験…子ども達のクッキングやお持ち帰りだけじゃ野菜が余って腐らせていた。→これまで子ども食堂へ提供していたが、こどもたちから農園で余ってしまった野菜をどうにかしたいとの声上がり、フードロスプロジェクトが始動

■これまでのアクション

野菜販売、オンライン伝票、値段決め、値札等買い出し、値札メッセージ、袋詰め、ディスプレイ、野菜の現状確認、お店へプレゼン ※お金の計算は子ども達、管理は当団体の責任者緒方（お金可視化）

■こども会議の様子（例えば）

子ども達のリアルな意見から考える

↓

『人はどうして安い料金を求めるのか？でも自分たちが考えた料金は高いと言われる。どちらを優先したら良いか困る』

↓

考えるだけではなく、いろいろな人の意見を聞きに行く

- ・お金より大切なことは信頼信用
- ・信頼や想いが伝わると価値が上がる
- ・それは価値のある料金となる
- ・物の料金は背景を伝えると提示された料金で納得してくれる可能性が高い
- ・自分たちの想いを伝えてその料金で納得してもらう

このようにたくさん学んで考えて体得しているプロジェクト!!

【実施】

内容	実行日
種、苗植え	5/20 9/30 10/8
水やり、草取り	5/27 5/31 6/10 6/14 6/21 7/5 7/8
収穫	6/7 7/12 11/8 11/18
販売	7/12 11/8 11/18 11/25

【成果】

自分たちが人のために何ができるかを考え、適材適所で個性を発揮している。

想像だけや決めつけだけではなく体感してリアル体験する（成功体験や失敗体験を思う存分する）昨年の課題であった活動の機会を増やすことで、反省点を活かし解決策を考え次の行動に繋げた。また、仲間の意見を聞く、自身の意見も伝える。子どもたち自身でお金の管理や計算をしてもらうためマネー教育も経験できている。年間通して子ども達も一緒に野菜を管理しているため食に対する興味関心が高まる。農作物を育つまでの過程や大変さを実感したことで農家やお家の人への感謝の気持ちも知るきっかけとなった。

震災直後から継続的に支援を受けた益城町の子ども達は中学1年生になり、OBとして後輩の6年生のサポートをしている。

支援から生まれた「誰かのために今できること」恩返しを考えるようになった

【課題】

天候や学校行事が重なり、計画通りに進まないことも多々ありました。また自然相手だからこそ農作物がうまく育たないモグラカラスによって被害が出るといった経験もしました。それも一つの経験として学ぶ機会となり、どうして育たなかったのか！？対策を考える。また地元の農家さんや地域の人たちを巻き込み一緒に体験していく。そのためには自分たちが実施していることをプレゼンに行く必要がある。

作物や運営をしていくための知識を提供してくれる人を必要と感じた。

【活動の様子】



FunFit Vegetable
Funtable
おいしいよ



フードロスプロジェクト
～作った野菜でみんなの役に立ちたい～



無農薬野菜



僕たち、私たちが作りました

一般社団法人 Fun&Fit
代表理事 緒方保美(ドナルド先生)
TEL 090-1516-6802

FUN & FIT
Kidz Sports * Event Project



【今後の展開】

オンライン有機野菜販売（現在実施）、飲食店での名物メニュー、キッズマルシェ（現在実施）、週末限定キッズカフェ

今後の展開

開発プログラム啓発事業、子ども考案プロジェクト支援（令和7年）」

研究をもとに開発した「Fun&Fit オリジナル運動プログラム - 幼児期に身に付けてほしい 36 の基本動作カード -」体験型研修を継続的に実施し、生活面や運動面で活かせるよう、また狙いのある運動指導が各園で実施できる「再現性」があるのかが課題であった。

動作カードを活用している現場の声、定期的に職員が実施しているプログラムに対してフィードバックやスキルアップ研修を行う。狙いのある運動指導で子ども達の体力面や生活面が向上したかを年度末にヒアリング調査を行い、研修プログラム及び動作カードを改良しつつ事業を継続的に実施する。

昨年同様「益城町」と共に子どもの未来をサポートしていけるように、誰でもどこでも「心身ともに逞しく、災害時や社会に通用するような生きる力を養う」

保育だけではなく、一般向けに動作カードを活用していけるようにプログラムを全国で幅広く提供できる取り組みを行う予定である。

《内容》

1、『幼児体育教室』+『プログラム啓発活動』

【時間】 園の正規時間内

【対象】 年長・年中・年少

【費用】 一般社団法人 Fun&Fit 予算、益城各保育予算

【回数】 各園毎月1回ずつ実施

【内容】

研修受講後の先生方へのサーキットカードに関する「使用上の悩み」を集約する為にアンケート調査をする。昨年度同様に研修結果と悩みアンケート調査の結果をもとに、悩みの解決につなげる運動プログラムを在園児に対して指導をし、現場で研修を行う。その後、実践に対するアンケート調査と測定を行い、保育士・幼稚園教諭だけで狙いのある運動指導ができる環境を提示して行く。

【実施日】

■令和7年3月から令和8年3月末 各園12回 計120h

2、『Fun&Fit 益城クラブ（総合運動部）フードロスプロジェクト - 』

【対象】 6年生児童 ※現5年生へ継承する

【費用】 一般社団法人 Fun&Fit 予算

【回数】 毎月1回ずつ実施

【内容】 6年生の発案をもとに実施するリアル体験活動【ファンタブル】

オンライン有機野菜販売、キッズマルシェ、地域運動会計画中